

労働安全の取組交流 アスベスト闘争勝利へ全力



労働時間について意見を述べる江戸川支部の仲間

参加者は、代議員25人、代議員以外の参加者22人、合計47人でした。最初に横澤労働部長挨拶と白滝書記長から挨拶があり、また首都圏建設アスベスト訴訟吉田共同代表から最高裁のたかいたと補償基金制度設立に向けた訴えがありまし

議案提案後、6支部から経歴の報告があり、目黒支部は安全大会で、フルハーネスを着用して実際にぶら下がる体験、足立支部からは、労働安全週間に関連した現場訪問で懇談が断れないように工夫した経験。小金井国分寺支部からはアスベスト被害者の会を支部で初開催、新宿支部からは「新宿アスベストシンポジウム」について、西多摩支部からは石綿・じん肺関連疾患での受診勧奨について、小

平東村山支部からは地域友好団体へ署名の協力を求めるキヤパン行動の取り組みについての報告がありました。主な質疑・討論では、江戸川支部より労働時間に対する意識改革について、労働者は言いづらい、事業主に考えてもらうよう訴えていくべきとの意見があり、「若年者が入職しないのは、休みが少ないため。親方層だけでなく、青年部や後継者など若い意見も取り入れ、全体で取り組んでいきたい」と回答しました。杉並支部より、フルハーネスの斡旋と買い替え補助に対して質疑があり、タニザワ製作所と全建総連が提携を協議中であり、補助については詳細がわかり次第支部へ連絡していくと回答しました。

課題も活発に討論が行なわれ、最高裁判決の見直しについては2年位で判決になることを弁護団が予測していること、署名や書記官要請などありとあらゆる手を尽くしていくこと。アスベスト100万

署名について、他団体への要請や常に持ち歩いて署名をとるなど重点課題として確認し、自治体意見書の採択について、全面解決へ向けて支部の意見を盛り込んで意見書採択につなげていく。労災認定

基準では喉頭がんを労災認定に認めさせる運動の必要性などがありました。最後に全体の拍手で議案を承認し、議案を採択・スローガンを唱和、団結カンパニーにて終了しました。

詰将棋の解答
▲3一金△一玉▲一三歩△同玉▲二銀△一三玉▲一四飛△同竜▲一三歩△同桂▲二一銀不成まで11手詰。

労働対策分科会

議長…唐鎌昭二(西東京)
書記…穴澤秀康(板橋)
後藤淳二(板橋)



穴澤議長

2018年度の活動経過と決算の質疑では、支部人件費等会計の障がい者雇用促進費用が減ったのは、決められた人数が充足したためと説明をしました。2019年度の運動方針、予算案では、池袋にある研修

センターの土地の価格が取得時のままになっているが、時価評価額にすべきではないかの意見に、外部監査の指摘により固定資産税評価額を記載しているが、今後の検討課題としたいと答弁。また、D-Arch(基幹

業務新システム)についてかかる費用と展望ほどの質問には、今までなかった本支部間の共有データベースをD-Archで構築し、業務の標準化をはかった。今後は情報を加工し、さまざまな業務にかず学習会なども開催するとともに資格講習システムとの連携も必要となるが、見直し額は提示していく、労災新システムとの連携についての支部負担は既存のパソコンにシステムを組み込んだ場合、保守料は基本的に発生しないが、今後のものは検討課題としたいと答弁。本部役員手当改定の要望も寄せられました。

その後、全体の拍手で財政分科会の議案を承認し、2018年度決算と2019年度予算案の仮承認をしました。

参加者は、代議員24人、特別代議員21人、本部役員2人、来賓3人の合計50人でした。挨拶した建築カレッジの小林謙二理事長は24期生募集の苦戦を報告し、「もっと多くの研修生を受け入れないと人材の質は保てない」と、応募活動への一層の協力を訴えました。議案提案後に「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の特別報告が行なわれ、近藤初雄書記次長が「民間システムだが国としての位置付けが明確になってきた。CCUSと能力評価制度の確立を待遇改善の運動に活かそう」と呼びかけました。討論は、CCUS普及の課題、講習・特別教育、若手技能者の確保と育成、の3つに集中。CCUSでは、「そんなに難しくはない。全支部で取り組もう」という前向きな発言と共に、「町場での現場入退場記録の方法」、「登録

財政分科会

議長：渡辺貞雄(村山大和)
書記：吉田幸仁(三鷹武蔵野)
荒木大輔(三鷹武蔵野)



吉田議長

参加者は代議員34人、代議員以外の参加者11人の合計45人でした。はじめに、丸山財政担当副委員長が「滞納対策を組織的に取り組み、納入率引き上げを追求し、組合定着、脱退防止、組合員拡大と結合させる」とした2018年の活動をしつかり総括し、2019年度

につなげよう」とあいさつしました。議案等の一括提案後、西多摩、清瀬久留米、江戸川、北支部から「納入率向上の取り組み」「労金を使った振込制度での危険回避対策」「財政部長の任期制」「直属事業所の滞納対策」といった報告を受けるとともに、70周年記念行事の決算を説明しました。2019年度財政活動の重点としては財務体質の改善・財政強化、組合財政民主主義の徹底、納入ルートの安全確保などを提案。

2018年度の活動経過と決算の質疑では、支部人件費等会計の障がい者雇用促進費用が減ったのは、決められた人数が充足したためと説明をしました。2019年度の運動方針、予算案では、池袋にある研修

センターの土地の価格が取得時のままになっているが、時価評価額にすべきではないかの意見に、外部監査の指摘により固定資産税評価額を記載しているが、今後の検討課題としたいと答弁。また、D-Arch(基幹

業務新システム)についてかかる費用と展望ほどの質問には、今までなかった本支部間の共有データベースをD-Archで構築し、業務の標準化をはかった。今後は情報を加工し、さまざまな業務にかず学習会なども開催するとともに資格講習システムとの連携も必要となるが、見直し額は提示していく、労災新システムとの連携についての支部負担は既存のパソコンにシステムを組み込んだ場合、保守料は基本的に発生しないが、今後のものは検討課題としたいと答弁。本部役員手当改定の要望も寄せられました。

その後、全体の拍手で財政分科会の議案を承認し、2018年度決算と2019年度予算案の仮承認をしました。

参加者は、代議員24人、特別代議員21人、本部役員2人、来賓3人の合計50人でした。挨拶した建築カレッジの小林謙二理事長は24期生募集の苦戦を報告し、「もっと多くの研修生を受け入れないと人材の質は保てない」と、応募活動への一層の協力を訴えました。議案提案後に「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の特別報告が行なわれ、近藤初雄書記次長が「民間システムだが国としての位置付けが明確になってきた。CCUSと能力評価制度の確立を待遇改善の運動に活かそう」と呼びかけました。討論は、CCUS普及の課題、講習・特別教育、若手技能者の確保と育成、の3つに集中。CCUSでは、「そんなに難しくはない。全支部で取り組もう」という前向きな発言と共に、「町場での現場入退場記録の方法」、「登録

東京労働局登録教育機関である東京土建技術研修センターが実施している講習・特別教育について、先進的な支部の代議員から「組合員数比3%の受講目標は低すぎるのでは」、「80人を超える講師登録があるのに、支部の取り組みに差がありすぎる」という指摘がありました。執行部は「支部の力量には差がある。全支部に3%達成を目指してもらう」としつつ、「登録講師が複数いるのに支部開催を未実施の支部では計画・実施を促す取り組みを強める」と答弁しました。



納入率向上の取り組みを報告する西多摩支部の仲間

参加者は、代議員24人、特別代議員21人、本部役員2人、来賓3人の合計50人でした。挨拶した建築カレッジの小林謙二理事長は24期生募集の苦戦を報告し、「もっと多くの研修生を受け入れないと人材の質は保てない」と、応募活動への一層の協力を訴えました。議案提案後に「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の特別報告が行なわれ、近藤初雄書記次長が「民間システムだが国としての位置付けが明確になってきた。CCUSと能力評価制度の確立を待遇改善の運動に活かそう」と呼びかけました。討論は、CCUS普及の課題、講習・特別教育、若手技能者の確保と育成、の3つに集中。CCUSでは、「そんなに難しくはない。全支部で取り組もう」という前向きな発言と共に、「町場での現場入退場記録の方法」、「登録

参加者は、代議員24人、特別代議員21人、本部役員2人、来賓3人の合計50人でした。挨拶した建築カレッジの小林謙二理事長は24期生募集の苦戦を報告し、「もっと多くの研修生を受け入れないと人材の質は保てない」と、応募活動への一層の協力を訴えました。議案提案後に「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の特別報告が行なわれ、近藤初雄書記次長が「民間システムだが国としての位置付けが明確になってきた。CCUSと能力評価制度の確立を待遇改善の運動に活かそう」と呼びかけました。討論は、CCUS普及の課題、講習・特別教育、若手技能者の確保と育成、の3つに集中。CCUSでは、「そんなに難しくはない。全支部で取り組もう」という前向きな発言と共に、「町場での現場入退場記録の方法」、「登録

参加者は、代議員24人、特別代議員21人、本部役員2人、来賓3人の合計50人でした。挨拶した建築カレッジの小林謙二理事長は24期生募集の苦戦を報告し、「もっと多くの研修生を受け入れないと人材の質は保てない」と、応募活動への一層の協力を訴えました。議案提案後に「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の特別報告が行なわれ、近藤初雄書記次長が「民間システムだが国としての位置付けが明確になってきた。CCUSと能力評価制度の確立を待遇改善の運動に活かそう」と呼びかけました。討論は、CCUS普及の課題、講習・特別教育、若手技能者の確保と育成、の3つに集中。CCUSでは、「そんなに難しくはない。全支部で取り組もう」という前向きな発言と共に、「町場での現場入退場記録の方法」、「登録

参加者は、代議員24人、特別代議員21人、本部役員2人、来賓3人の合計50人でした。挨拶した建築カレッジの小林謙二理事長は24期生募集の苦戦を報告し、「もっと多くの研修生を受け入れないと人材の質は保てない」と、応募活動への一層の協力を訴えました。議案提案後に「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の特別報告が行なわれ、近藤初雄書記次長が「民間システムだが国としての位置付けが明確になってきた。CCUSと能力評価制度の確立を待遇改善の運動に活かそう」と呼びかけました。討論は、CCUS普及の課題、講習・特別教育、若手技能者の確保と育成、の3つに集中。CCUSでは、「そんなに難しくはない。全支部で取り組もう」という前向きな発言と共に、「町場での現場入退場記録の方法」、「登録

技術対策分科会

議長：葛西政之(大田)
書記：佐藤力(八王子)
吉田誠(八王子)



佐藤議長

CCUS 難しくない 待遇改善の運動に活かそう

参加者は、代議員24人、特別代議員21人、本部役員2人、来賓3人の合計50人でした。挨拶した建築カレッジの小林謙二理事長は24期生募集の苦戦を報告し、「もっと多くの研修生を受け入れないと人材の質は保てない」と、応募活動への一層の協力を訴えました。議案提案後に「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の特別報告が行なわれ、近藤初雄書記次長が「民間システムだが国としての位置付けが明確になってきた。CCUSと能力評価制度の確立を待遇改善の運動に活かそう」と呼びかけました。討論は、CCUS普及の課題、講習・特別教育、若手技能者の確保と育成、の3つに集中。CCUSでは、「そんなに難しくはない。全支部で取り組もう」という前向きな発言と共に、「町場での現場入退場記録の方法」、「登録